

小規模企業景気動向調査

[2021年4月期調査]

～緊急事態宣言等の影響で、2カ月連続の大幅改善から横ばいに転じた小規模企業景況～

2021年5月26日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2021年4月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…緊急事態宣言等の影響で、2カ月連続の大幅改善から横ばいに転じた小規模企業景況…◇

4月期の小規模企業の景況DIは、2カ月連続の大幅改善から横ばいに転じた。昨年4月期の▲78.6から見れば改善しているものの、今年の経済活動がほぼ停止した4月よりは良い程度だというコメントも目立った。コロナ禍の生活様式に対応したサービスの提供などの事業者の工夫や感染防止をはかりながらの経済活動により、今年の前年同月と比べると、稼働率や客足は戻りつつある。しかし、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による経済活動の抑制もあり、先行きが不透明なことから、事業者は精神的にも体力的にも疲弊しているとの声が多くみられた。

<製造業> ◇…機械・金属関連が大幅改善も、全体では悪化と、明暗が分かれた製造業…◇

製造業は、業況DIが小幅な悪化となり、それ以外はほぼ横ばいとなった。食料品関連は、巣ごもり需要が堅調であるが、原材料の原価高騰や土産物店・飲食店の需要減退等で厳しい状況である。機械・金属関連は、半導体関連や医療衛生分野等の受注増により、業況DIが15pt以上改善したものの、国内外の需要停滞や原材料の価格高騰等もあり、先行きを不安視する声が目立った。繊維関連は、外出自粛等の影響で需要が減退し、また、生産調整や取引規模の縮小等もあり、大幅な悪化となった。一部業種が好調でも、製造業全体では悪化となり、明暗が分かれた格好である。

<建設業> ◇…回復基調から、小幅な悪化に転じた建設業…◇

建設業は、採算DIが小幅に改善したものの、その他のDIは小幅な悪化となった。公共工事は、一部に例年よりも少ないとの声があるものの、引き続き堅調である。民需においても、新築工事や修繕・リフォームが好調との声が多かった。しかし、公共工事が徐々に減少していることや、建築木材の輸入量の減少とそれに伴う価格の高騰等により、工期の遅れや採算の悪化が発生し、すでに一部では資金繰りに影響が出ているなど、今後を不安視する声が多くみられた。

<小売業> ◇…回復基調から、足踏み状態に転じた小売業…◇

小売業は、採算DIが小幅に悪化し、それ以外はほぼ横ばいとなった。食料品関連は、巣ごもり需要により内食向けは堅調であるが、飲食店との取引の多い事業者は、時短・休業要請などの影響を受け、依然として厳しい状況が続いている。耐久消費材関連は、引き続きウイルス対策関連の機器の購入や買替で堅調であるが、購買意欲が落ちているとの声や通販に需要を奪われているとの声もある。衣料品関連は、外出を控えの影響で需要が減退しており、また、一部ではネット購入への移行により売上が低調との声もあり、今後も予断を許さない状況にある。

<サービス業> ◇…3か月連続の改善も、全体的には厳しい状況が続くサービス業…◇

サービス業は、4業種で唯一、小幅ながら全DIが改善した。全DIの改善は3カ月連続である。宿泊業は、一部地域ではビジネス関連の利用や地域商品券発行等による需要があるとの報告があったが、あくまでも、危機的な状況であった昨年4月との対比の改善であり、春の行楽シーズンの需要がほぼ無くなるなど、低い稼働率が続いている。飲食業は、歓迎会シーズンであるが会食を避ける傾向が強まっており、苦境が続いている。また、洗濯業及び理美容業は、一部で、客足が戻ってきているとの声もあるが、来店頻度が減っており、厳しい状況となっている。

| 業種 | 産業全体 | | | 製造業 | | | 建設業 | | |
|------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 3月 | 4月 | 前月比 | 3月 | 4月 | 前月比 | 3月 | 4月 | 前月比 |
| 売上額 | ▲ 35.0 | ▲ 34.0 | 1.0 | ▲ 40.3 | ▲ 39.1 | 1.2 | ▲ 18.5 | ▲ 21.0 | ▲ 2.5 |
| 採算 | ▲ 37.8 | ▲ 36.9 | 0.9 | ▲ 43.8 | ▲ 43.1 | 0.7 | ▲ 24.0 | ▲ 22.1 | 1.9 |
| 資金繰り | ▲ 37.2 | ▲ 36.3 | 0.9 | ▲ 39.6 | ▲ 39.0 | 0.6 | ▲ 23.7 | ▲ 26.8 | ▲ 3.1 |
| 業況 | ▲ 39.4 | ▲ 40.0 | ▲ 0.6 | ▲ 43.8 | ▲ 46.3 | ▲ 2.5 | ▲ 23.0 | ▲ 24.1 | ▲ 1.1 |

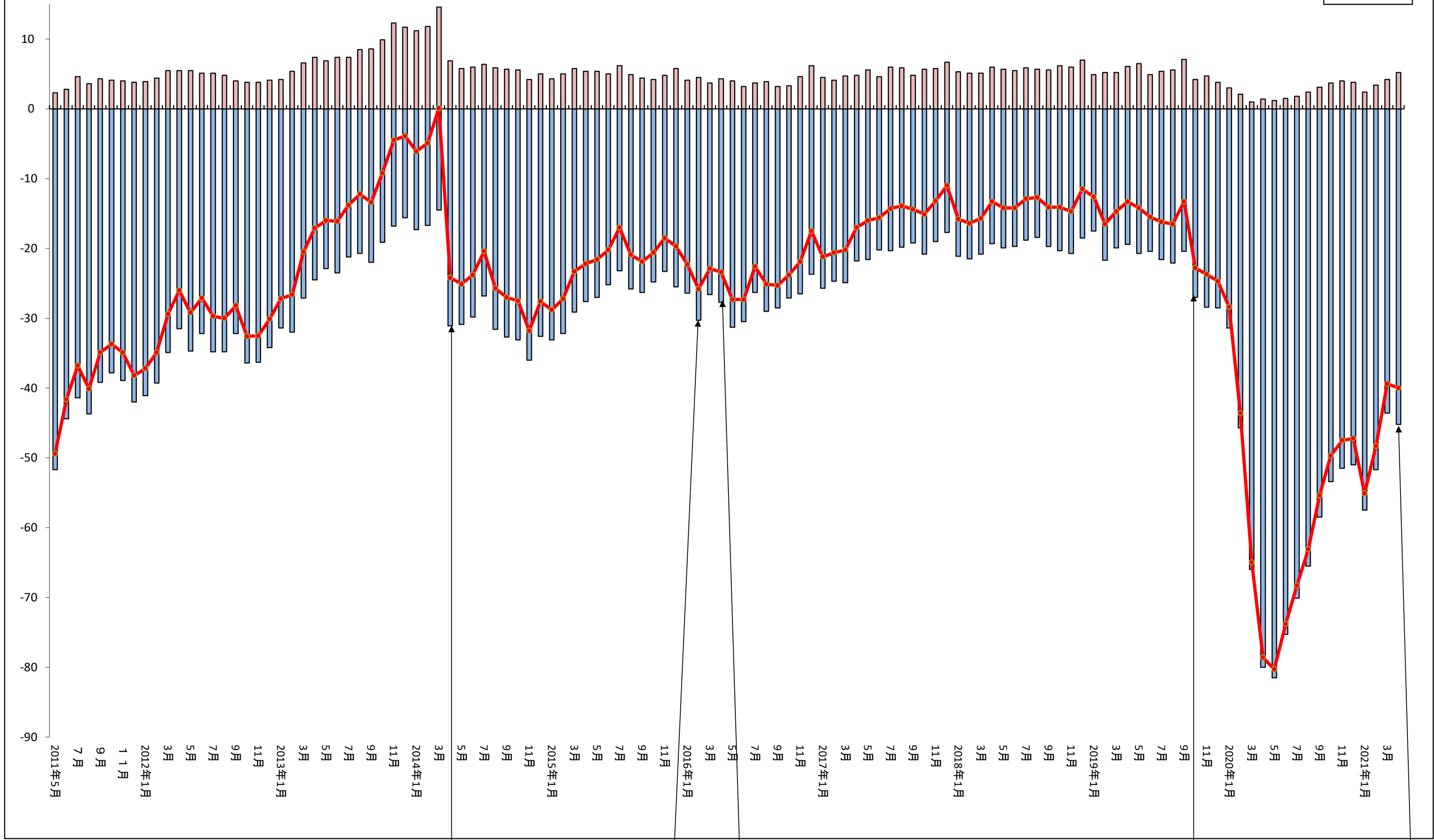
| 業種 | 小売業 | | | サービス業 | | |
|------|--------|--------|-------|--------|--------|-----|
| | 3月 | 4月 | 前月比 | 3月 | 4月 | 前月比 |
| 売上額 | ▲ 32.1 | ▲ 31.5 | 0.6 | ▲ 49.1 | ▲ 44.3 | 4.8 |
| 採算 | ▲ 34.3 | ▲ 37.2 | ▲ 2.9 | ▲ 49.0 | ▲ 45.2 | 3.8 |
| 資金繰り | ▲ 35.9 | ▲ 33.4 | 2.5 | ▲ 49.5 | ▲ 46.0 | 3.5 |
| 業況 | ▲ 38.1 | ▲ 37.9 | 0.2 | ▲ 52.5 | ▲ 51.6 | 0.9 |

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■悪化
■好転
●DI



14年4月
消費税率
8%
に
引上げ

16年2月16日
日銀マイナス
金利導入

16年4月
熊本地震

19年10月
消費税率
10%引上げ

21年4月
(-39.4)

小規模企業景気動向調査(4月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

・新型コロナウイルスの影響に対する経済対策として町内で使用できるプレミアム付き商品券が発行された。事業所の売上向上と地域経済の活性化に繋がることを期待している。

(五戸町商工会)

・令和2年度実施された国の持続化給付金・家賃支援給付金・県の時短要請協力金・国県の一時金や日本政策金融公庫の融資を斡旋(据置期間2年を選択)したことにより、現状では、厳しい環境の中、堅実に経営できていると思われる。

(苓北町商工会)

・現在、特別貸付金やセーフティー資金等の借入金で資金繰りを行っている状況にも伺える。未だ、借入金の回収は厳しい状況。地区内では業種を問わず、どうにか事業継続およびコロナ脱却に向けて取り組みたいという事業所もある。その動きとしては事業再構築補助金や小規模持続化補助金(低感染型)を活用し、新たな取組みをしたいという相談を受けている。

(中城村商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・地域的に依然としてまだまだ景気が向上しない状況が続いている。来客数が少なかったり、外出自粛の影響による売上減は事業者にとり死活問題である。そんな中でも事業者は毎日必死に営業している。我々としても自治体等に意見書の提出や連携の上、地域の景気向上のため政策等を考案し実行していくべきである。

(鹿島商工会)

・地域全体としては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも少しずつ戻り始めている感じではいたが、緊急事態宣言が都市部で発令されると、特に飲食・宿泊関係業種において、敏感に反応があり、ゴールデンウィークの予約が入っていたものが次々とキャンセルになっていったとのことでした。

(羽咋市商工会)

・1度目の緊急事態宣言が発令されてから1年が経つが、1年が経ったことで消費者のコロナ禍での経営活動の仕方が生まれた。しかし、業況が長く低調に推移しているしており、経営体力の低下もみられ全体として厳しい状況が続いている。

(海津市商工会)

・新型コロナウイルスの再拡大から、まだまだ先行きが見通せない状況が続いている。またその他、事業者や顧客の高齢化、仕入れ価格の高騰などその他要因もあり、全般的に経営状況への不安は大きい。

(米子日吉津商工会)

・昨年は1回目の緊急事態宣言下で、人の動きが止まっていたが、今年度は飲食店や観光業は苦戦しているものの、軒並み人は動いているので、業種によっては、好調な業種(建設業など)もある。

(糸島市商工会)

・新年度に入っても新型コロナウイルス感染症の再拡大により、イベント・行事等が中止となるとともに、GW中の移動自粛もあり、経済が循環していない。消費マインドは益々冷え込んでおり、新たに設備投資を行う事業所も少なく、先行き不透明感が強い。

(松浦市福鷹商工会)

・コロナ収束の目途が立っておらず、事業者は疲弊している。国・県・市などの支援制度の拡充や追加、延長などが必要とされている。

(日田地区商工会 大山支所)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

・製造機械部品製造では、新型コロナウイルス感染拡大の影響から一時期 受注が落ち込んでいたが、3月期辺りから、持ち直しの兆しが見えてきているようであり、7月-9月の受注予定、問い合わせがはじまっている。

(羽咋市商工会)

・コロナの影響を受けている業種もあるものの自動車関連は好調である。

(裾野市商工会)

・昨年の今頃は、急激に新型コロナの影響が出て、売上が大幅に減少していたが、影響の長期化により、住民の危機意識が緩やかになり、消費が伸びてきている。

(志布志市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・縫製業関係は、依然として厳しい状況が続いており、人件費支払いのため融資申込みした事業所がある。反対に、医療用器具を製造している企業は受注が増加し、フル稼働状態との事であった。

(よこて市商工会)

・食料品に関しては、飲食店の時短要請等を要因として売上が低下している。また、原材料費や燃料の高騰が収支を悪化させる要因となっている。

(香取市商工会)

・半導体関連の事業者は巣ごもり需要等のため売上増加傾向にあるようである。しかしながら、その他製造業の事業所になると新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け売上減少している。

(瑞穂町商工会)

・食料品製造業では一部、やや回復の兆しが見えてきたところだが、食材原材料の高騰等もみられる。また、コロナ第4波による都内の緊急事態宣言により、例年繁忙期であるゴールデンウィークの観光客減による受注減が見られている。

(南伊豆町商工会)

・金属機械の受注は安定してあるが材料仕入単価が上昇している。自動車関連部品が少ない分、建設部材や家電部材が増加。

(浅羽町商工会)

・織物製造業では、生糸が値上がりしており採算が悪化傾向にある。緊急事態宣言延長の影響もあり商品が動いていない。

(与謝野町商工会)

・食料品製造業が飲食店等の休業や時短要請により売上が減少傾向である。

(太子町商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

・回復傾向にあり、最近ではリフォームや新築の工事も増えてきている。

(白神八峰商工会)

・おうち時間を充実させたいという需要に応えるため、新築・リフォーム共に好調である。

(香取市商工会)

・公共工事、新東名高速工事が順調である。

(裾野市商工会)

・西日本豪雨の復興工事、高速道路工事が多く売上は大幅に増加している。

(津島町商工会)

・前月比で受注増加。理由はコロナ禍による資材調達の遅れや、施主側の経営難による受注現場の遅延や中止等で滞っていた物件が徐々に動きだしたことによるが、特に都市部(福岡市内)などの物件では解体業務や増加している。その背景には、飲食店の経営不振・廃業による原状復帰退去のための解体業務や、新たに入居するテナントの改装業務など、景気回復による活況というよりも、コロナ禍ゆえの外部環境の変化による事情が潜んでいる模様。

(神崎市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・建築業においては、積雪期を抜けて本格的な建築シーズンに入ったものの新型コロナウイルスの影響からなのか不明であるが、海外からの建築木材の輸入量の減少により仕入単価が上昇傾向にあるために採算が厳しくなると考えて、新築物件の請負も躊躇する建築業者もある。

(外ヶ浜町商工会)

・鉄筋工事業は継続した受注があるものの、原材料価格が高騰しており、採算悪化が懸念される。また、建築業においては新型コロナウイルス感染症の影響により現場への立入が制限される状況が発生しており、工期の遅れが生じている。

(みやぎ北上商工会)

・外出自粛において消費者が住まいの不具合に気づくことが増えてきたため、住宅リフォーム関連において受注が続いている。ただし、店舗物件や工場物件などの受注は限られている。

(栗野商工会)

・土木工事を中心に行っている事業者は、公共工事が中心であり入札単価が減少傾向ではあるが受注量について、当地域ではあまり変化は感じていない。

(羽咋市商工会)

・土木工事は、災害復旧工事で以前好調。建築関係では、左官業者などの専門業者の受注は減少。

(中部商工会産業支援センター)

・建設関連の業者は、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外から材料が届かない事、公共事業が延期になるなどの理由から、業況は悪化傾向である。

(上島町商工会 弓削生名支所)

・公共工事は順調にあるものの、民間下請けはコロナの影響で波があり、個々での差が大きい

(益城町商工会)

・新型コロナウイルスの影響により、受注難・資材調達難・人員不足の状況は続いている。

(南九州市商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

・新型コロナの影響が続いており食品小売りにについては巣ごもり需要は大型店のみであり零細小売店舗にはほぼない現状である。耐久消費財である冷蔵庫、エアコン等白物家電の購入がやや増加している現状にある。

(会津美里町商工会)

・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、巣籠需要が発生し、食品小売業の売上は好調のようである。

(朝日商工会)

・4月より使用可能の町プレミアム商品券の利用により、食料品小売業、家電等耐久消費財に一定の利用効果が見られている。

(南伊豆町商工会)

・白物家電はコロナ禍でもニーズが高い。買い替え需要も徐々に高まってきている。

(土居町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・衣料品小売業関連の事業者は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているため、売上の回復が見込めずにいる。食品小売業関連及び耐久消費財の関連業者の事業者は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているため、前年同様に推移している。

(新ひだか町商工会)

・飲食店の時短営業や外出自粛により、食料品の小売に関しては売上が減少。

(長南町商工会)

・新型コロナウイルス感染流行が拡大傾向にあり、旅行や仲間同士の会合など新しい洋服を購入する動機づけとなる機会がないため、衣料品小売業は客数、売上ともに低迷した状況が続いている。宿泊施設や飲食店等へ食材を納めて事業者は、宿泊施設や飲食店の客数が大幅に減少している状況が続いているため、売上が低迷している。さらに、祭りやイベント等が軒並み中止となり仕出し等の需要がほぼないため、売上減少に拍車をかけている。家電小売業は、空気清浄機や空気清浄機能付きエアコンなど新型コロナウイルス感染防止対策の需要が落ち着き、前年同月は需要が激増する前なので、それと比べると前年並み。

(妙高高原商工会)

・衣料品販売は例年4月は旅行や新生活の需要から一定の売上があるが、今年は外出自粛の影響もあり動きは鈍い。緊急事態宣言下にあった昨年と比べると回復基調にある。耐久消費財販売は、巣ごもり需要と4月からの新生活需要もあり、家電販売は好調。新車販売は微減、中古車は、海外買い付けや移動手段の見直し(公共交通機関から自家用車)等の影響で中古車ニーズが高まり仕入価格は上昇している様子。資金源の乏しい小規模販売店は苦戦を強いられている。

(富山市八尾山田商工会)

・衣料品小売関連の事業者は、新型コロナの影響による外出機会の減少により販売が低迷している。食料品小売関連の事業者は、酒類を取扱っているところの売上が減少している。耐久消費財関連の事業者は、高価格帯の商品の売れ行きが鈍くなってきている。

(能登町商工会)

・衣料品小売業は外出自粛要請から緊急事態宣言発令により、先月よりさらに深刻な状態に陥っている。

(姫路市商工会)

・街中の飲食店(スナック、居酒屋等)に食料品や酒類を納めているが、飲食店が時短営業等により売上はコロナ禍の中で厳しい状況である。

(熊本市北部商工会)

・被服関連業者は、コロナによる外出自粛により、外出用の服を新調しなくてもよ、く売り上げは伸び悩んでいる。食品関連事業者に関して、消費者はコロナ禍でも食品など必要なものは買わなくてはならないため、大幅な売上減少はない。しかし、小売り全般としてはコロナによる売上減少の状態。

(山都町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

・旅館・宿泊業においては、以前、新型コロナウイルス感染症対策による県境をまたぐ移動を避ける傾向が強くなり観光客等も従来の売上には到底及ばない状況にある。しかしながら、県の観光業に対する補助金を活用して出来る限り感染症対策を行おうとする旅館もあるなど意欲的な事業者も多い。

(外ヶ浜町商工会)

・理美容業関連の事業者は、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いているが、特に影響が大きかった昨年同月と比較すると景気動向はやや好転している。

(あさぎり町商工会)

・旅館・ホテル業は、2月末から6月末まで、2年に一度の九州電力苓北発電所定期検査作業員の方の宿泊があり、売上は確保できている。しかし、観光客の予約は、期待できないと思われる。苓北町役場のコロナ感染症対策補助金制度があり、不特定多数の消費者が利用する旅館・ホテル・理容・美容業の業者に対して、空気清浄器やオゾン発生装置・アクリル板・自動消毒液など、15万円(補助率75%)までの補助金があり、令和2年度に引き続き、令和3年度もコロナ対策に設備投資が出来ることになり、経営面に貢献できている。

(苓北町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・旅館業においては依然としてコロナ禍の中で、旅行での宿泊は無く、売上は減少の一途を辿っている状況。飲食業においては3度目の国の緊急事態宣言発令により、酒を提供する飲食店に対し休業要請が出たため、昨年同月と同様売上減少・収益悪化の状態が続いている。

(狛江市商工会)

・理美容業は、地域柄高齢の顧客が多く、感染リスクを懸念し高齢者の来店客が減少している。

(瑞穂町商工会)

・観光産業と密接な繋がりをもつ旅館業は未だ先行きの見えない状況。緊急事態宣言の影響もあり、GWの予約も埋まらず閉塞感が強くなっている。洗濯業は、昨年4月に比べると人の動きがあり、冬物クリーニングは例年並みに回復しているが、春祭りなどイベントの中止が相次ぎ法被などのクリーニングがなく影響は小さくない。理美容業は、入学式等の行事もあり昨年4月に比べると好調。

(富山市八尾山田商工会)

・3度目の緊急事態宣言では、酒類を提供する飲食店には休業を要請、大規模商業施設やには休業を促すなど、前回の発出よりも厳しい措置がとられたこともあり、理美容サービスまで幅広く落ち込むことになるなど、サービス業全般としては、厳しい経営状況が継続した。先行き感としては、収束が見えないまま、長期化することへの不安と、消費がさらに低迷することを心配している。

(川西市商工会)

・宿泊業については、先般の緊急事態宣言発出により客足は減少している。

(岩美町商工会)

・旅館・宿泊は昨年同月よりは持ち直しているものの、緊急事態宣言の影響により低調。理美容業は感染対策が定着し、客足は戻りつつある。洗濯業はテレワークが浸透している事もあり、今後も低調が続くものと思われる。

(日高村商工会)

・飲食・宿泊関連のサービス業は、新型コロナ感染症再拡大により移動自粛及び宴会自粛の影響を受け、経営は悪化している。既往借入の返済も困難となってきたりしている事業所も出てきているなど、全体的に資金繰りが悪化している。

(松浦市福鷹商工会)

・旅館、宿泊所は市内でのコロナウイルス感染者が出た際に、予約のキャンセルが相次いでおり、ゴールデンウィークでの売り上げも落ち込むことが予想できる。また、洗濯業も宿泊業などの顧客からの発注が減少しており売り上げが落ち込んでいる。

(菊池市商工会)